会 議 録

会 議 名	第 3 7 期小金井市公民館運営審議会第 1 6 回審議会		
事 務 局	公民館		
開 催 日 時	令和 7 年 6 月 1 8 日（水）午前 1 0 時 0 0 分から午前 1 1 時 3 8 分		
開 催 場 所	小金井市役所第二庁舎 8 0 1 会議室		
出 席 委 員	本川委員長 倉持副委員長 武田委員 橋本委員 福井委員 大坪委員 石原委員 稲垣委員 吉田委員 川原委員		
欠 席 委 員	なし		
事 務 局 員	鈴木公民館長 落合事業係長 八方事業係主査 諏訪庶務係長		
東分館・緑分館・貫井北 事業運営受託者	N P O 法人市民の図書館・公民館こがねい 鈴木東分館長 伊藤緑分館長 村山貫井北分館長		
傍 聴 の 可 否	可	傍 聴 者 数	1 0 名
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
会 議 次 第	1 開会 2 第 1 5 回公民館運営審議会の議事録の承認について 3 報告事項 (1) 東京都公民館連絡協議会 委員部会の報告について (2) 公民館事業の報告について 4 審議事項 公民館事業の計画について 5 協議事項 公民館有料化について 6 その他 7 閉会 配付資料 資料 1 公民館事業の報告 資料 2 公民館事業の計画 資料 3 公民館使用料導入に係る収納方法検討について 資料 4 小金井市公民館の施設使用料の導入について（提言）案 資料 5 意見・提案シート 資料 6 都公連委員部会報告書		

会 議 結 果

1 開会

【本川委員長】

これより第37期第16回公民館運営審議会を開会する。

【鈴木公民館長】

本日、緑小学校校長の武田委員は当審議会に初めて参加となるので、一言ご挨拶をお願いしたい。

【武田委員】

この4月より、緑小学校の校長として拝命された武田修宜と申します。八王子に21年間おり、小金井に来ました。子どもたちのすてきなところ、地域の方々の温かさの中で、すてきな小金井をさらに知りに来ました。よろしくお願いします。

【鈴木公民館長】

市に提出のあった団体からの要望書については、公民館利用者と公運審委員を含めた意見交換の場の要望があった。これまでの意見・提案シートなどであったところであるが、事務局としては、審議会での提言の提出後に利用者の方々との意見交換の場等をつくっていければと考えている。任意とはなるが、公運審委員にも同席いただきたいと考えている。ご意見等は、次第5の協議事項の中でお願いしたい。

2 第15回公民館運営審議会の議事録の承認について

【本川委員長】

第15回公民館運営審議会の会議録については承認ということでよろしいか。

(異議なし)

3 報告事項

(1) 東京都公民館連絡協議会 委員部会の報告について

【吉田委員】

第1回運営委員会は、6月12日午後2時から福生市のさくら会館で行った。前回の担当は西東京市で、今回からは福生市が事務局となった。参加市は9市で新たなメンバーもいるため、報告書に名前を記載した。

1の確認事項では、前回の委員部会運営委員会の議事録が承認され、2の報告事項は、令和7年度の都公連総会が4月23日に開催されたこと、都公連役員会は、5月20日に国分寺で開催があったとの報告がされた。

3の協議事項では、今年度の活動方針は、前年度の方針7項目と同様の内容とするという確認があった。

次に、今後の運営委員会の日程は、年9回開催し、研修会並びに研究大会も含まれ、研修会は10月18日もしくは25日の予定で、過去のテーマ、会場等一覧表が配付され、次回に検討する。研究大会は来年の2月7日を検討している。

各市の情報交換では、市報や公民館だよりが配られ説明を受けた。小金井市は、月刊こうみんかん6月号とみどりちょう空間春号を配布した。

【本川委員長】

研修会など機会は、積極的に参加していただきたい。
他にはいかがか。なければ次に移らせていただく。

(2) 公民館事業の報告について

【落合事業係長】

今回は、2館2事業を報告させていただく。詳細は資料をご覧ください。

【福井委員】

1ページの参加者感想で、展示品に展示した方の名前があったほうがという感想であるが、展示品は団体名を掲載するのが一般的かと思うが、市として制約はないという理解でよろしいか。

【落合事業係長】

そのとおりで、各センターまつり等は、参加される団体の判断となる。ただし、チラシ等では参加団体を明記している。

4 審議事項

公民館事業の計画について

【落合事業係長】

今回は3館から12事業を計画している。詳細は、資料2をご覧ください。

【福井委員】

2ページの緑長生会の皆さんに協力してもらおう緑センターの夏休みは、どういった方法で児童・生徒へのアプローチされるのか。

【伊藤緑分館長】

緑長生会に関わっていただくのは、事業の特色欄のぬりえ体験、カラオケ体験、輪投げ体験の3日間となる。

児童・生徒への呼びかけは、市報7月1日号と緑小学校、緑中学校の全児童・生徒に配布を検討している。

【福井委員】

児童というのは、小学校以上で、特に幼稚園は関係ないということによろしいか。

【伊藤緑分館長】

対象は小学生以上となっているので、緑小学校の1年生から6年生、緑中学校の1年生から3年生を考えている。

【福井委員】

2ページの一番下の日時で7月227と書かれているが、7が不要ではないのか。

【落合事業係長】

申し訳ありませんが、7月22日と訂正させていただきたい。

【川原委員】

緑分館の男めし講座の材料費や参加費ほどの程度であるか。

【伊藤緑分館長】

今回は、小金井野菜を材料として使い、調味料等を含めて一人2,000円で検討している。その場で食べていただくことになる。

【川原委員】

できれば備考欄に書いていただき、参考としたい。

【伊藤緑分館長】

わかりました。

【本川委員長】

ほかになれば、公民館事業の計画について、承認ということによいか。

(異議なし)

5 協議事項

公民館有料化について

【鈴木公民館長】

今回の協議事項は、使用料導入に係る収納方法の検討と、提言書についてのご意見をいただきたい。

収納方法の検討は、今までの議論等が十分に行われたわけではないため、今回整理をさせていただきたい。

【諏訪庶務係長】

資料3は令和6年5月29日に開催した第6回、資料8を基に若干の修正等を含めた一覧表となっている。パターンは、①職員等レジで対応する人的対応、②券売機方式のキャッシュレスを含まないもの、③券売機とキャッシュレスを含む機器の3種類で、利便性、事務作業量、人件費、機器購入費・ランニングコスト、また、安全性等を○、△、×で比較し、その理由を示している。②の券売機は、料金設定に準じて低額紙幣でのボタン式を想定した。③のキャッシュレスでは、機器導入費等を考慮し、コスト面からも、電子マネー、QRコード決済での対応を想定した。これらの記載に関して、追加する文言、修正等のご意見を伺い、審議会でのまとめとしたい。

【福井委員】

収納方法は過去に1回検討し、利用者の利便性と職員の効率性が必要ということで、武蔵村山市と小平市を視察したが両市とも券売機等の利用はなく、職員が窓口徴収していると報告があった。それ以外の都公連に加盟の狛江市は、券売機を利用しているが、視察には至らなかった。

券売機と職員を併用している場合の券売機の利用度は、5%から15%程度だったと思う。したがって、小金井市の具体的な話はしていないが、基本的には職員2名体制で運営するのか、券売機併用を検討すべきと思う。

また、券売機は年間100万円から150万円ぐらいの経費がかかるとあるが、その数字が1社から見積もったものか、相見積もりなのか等具体的にし、選定していくことが重要なポイントだと思う。あくまでも利用者目線、市民の立場に立った利用が一番基本になる。

【稲垣委員】

2番のボタン券売機の場合に、①のレジ方式と併用はないと思っている。理由としては、市内の体育館は券売機方式のみでレジ方式との併用はないと思う。キャッシュを扱うのは危険を伴い、夜間の体制を考えてもボタン券売機で一律というのが一番安全だと思う。

この場合、職員の利便性はあるが、使う方は一回お金を入れて券を買う手間が増え利便性の面は失われるが、安全性を重視して、ボタン券売機のみという形が好ましい。他市を参考にする前に、市内の状況を見るべきではと思う。

【石原委員】

この○△×の△にした理由と、キャッシュレスは電子マネーとQR決済を想定しているが、そこにクレジットがなぜないのか。手数料等によるものかとは思いますが、電子マネー等と一緒にあり、クレジットだけ使えないのは疑問である。

【諏訪庶務係長】

○△×については、その下にあります主な理由を踏まえて判断した。ですので、ある程度の理由を示しているのので、ここに不足等を追加していただきたい。

クレジットの対応機器に関し、その他の欄のとおり、導入費用が高めで、期間もQRや電子マネーに比べ、長くかかることを考慮して今現在では考えていないが、この場で、クレジットが必須であるというご意見もあればと思う。

【石原委員】

△にした理由は、コストが高いとか人件費で、ボタン券売機であれば、委託料が少ないほうが○で、それ以外は△というのは分かるが、クレジットを使っている人は最近多いので、ピッとやれば済むような形で、対応したほうがいいのではないかと。

ただ、選択肢は多いほうが使う側としてはいいが、手数料が発生し、市の収入が減るといふこともあるので、その辺も考慮し、意見を出し合って決めたいと思う。

【大坪委員】

公民館の使用料は、今の我々の価値観で決めるのではなく、3年、5年後にキャッシュレスが当たり前の時代がきて、そこに関わる費用も今よりも安くなるではないか。

高齢の方がいつまでも現金でないとという考えは間違いで、この話を進めるのであれば、積極的にキャッシュレスとしていかないと、そもそもの受益者負担の考えで、いい公民館の使われ方や若者の利用の促進を前提に話してきたので、目的から逸脱してしまう。

受益者負担の考えにおいて、公民館の使用料の導入を我々は考え、お金がかかるから却下ではなく、あくまでも収益化ではない。5年後、10年後の未来を見据えた使用料なので、その部分を皆さんで考えたい。

【本川委員長】

中期、長期を見ながら私たちは検討していく必要があり、前提としては、それは根底にはあったと考える。

【福井委員】

ボタン式の券売機の導入コストは、この表では、年間130万円よりという数字で以前の資料では、年間150万円から250万円程度であったと思うが、導入コスト、メンテナンスも含めた年間経費の具体的な数字も必要ではないかと思う。

【諏訪庶務係長】

昨年5月の資料8では、高額紙幣対応機では、年間5館で220万円というところであった。今回低額紙幣で想定し、年間130万円程度ということになっている。ランニングコストが別途かかる想定になるため、年間150万円から250万円程度と資料を作成している。

【福井委員】

低額紙幣で、千円札または二千円札ということであるが、関東エリアで二千円札は、ほぼ利用されていないと国の発表もある。五千円札または一万円札の利用できる券売機が必要ではないか。

【稲垣委員】

キャッシュレスについては、大坪委員のとおりだと思う。

以前の視察の中で、問題になったのは、収入よりもランニングコストが高かったことである。また、イニシャルコストも高額ではあったが、国からの補助金でほぼかからず導入したようであるが、今、国の補助制度はないと思うので、キャッシュレスは無理かという結論になった記憶がある。

したがって、ボタン券売機がいいと思うが、イニシャルコストランニングコストがどれぐらいかかるのかというのは重要で、そこはきっちりと提示してほしい。

【川原委員】

体育館等で券売機の運用をしていると思うが、高額紙幣、導入時の問題、運用上のトラブルの情報があれば。

【橋本委員】

券売機でS u i c a等は使えないのか。

【諏訪庶務係長】

S u i c aは電子マネーで、例として、交通系I C、楽天E d y、n a n a c o、WAON、Q U I C P a yで、QRコードは、P a y P a y、d払い、楽天ペイ、A i rペイなどが想定される。

【本川委員長】

新千円札に関しても未対応のところがあるが、それも徐々に解消されていると認識はしている。

【石原委員】

ボタン券売機の事務作業量で誤購入等の対応が必要とあるが、キャッシュレスの場合も同様ではないか。普段のお店でもあり得ることで、そういった可能性を考えているか。また、返金対応はキャッシュレスなのか、現金となるのかで、現金の扱いが増え安全性が低くなるので、記載があったほうがどうか、皆さんに聞きたい。

【諏訪庶務係長】

③のキャッシュレスの主な理由は、ボタン券売機と同様に対応が必要と認識はしている。はっきりとしているわけではないが、キャッシュレスの返金処理は、その場対応が難しく、後日となってしまわないかと考えている。

【石原委員】

あとでやり取りとなると、事務作業的には現金のやり取りと変わらないのではと思ったので、その辺も検討事項の一つである。電話対応や業者対応などの作業量がレジより増えてしまうのではと考えられる。

【吉田委員】

ボタン券売機にキャッシュレスも含むものを推奨したいが、他市視察から時間がたっていてタイムラグもある中、事務局としていつどのような形で進め結論を出すのか。

【鈴木公民館長】

収納方法の検討は、昨年、十分な協議には至っていないところであった。今回改めて3つの方法について案としている。現金を手で扱うことは、安全性の観点からできれば避けたい。この○△×の表示にも表しているが、人的対応の部分に関しては○が1つもなく、×が2つで、点数化するとすれば低くなる認識となる。

それから、今現在、券売機の方法の団体が多いと聞いていて、現実的には券売機の導入がベターなのかと考えている。

キャッシュレスは、○、○、○、×、○で、導入費、ランニングコストの部分が割高であり×がついている。確かに若い方はキャッシュレスを使う方が多く、一定利便

性もあるという話であるが、事務局の現時点での考えは、券売機、それからキャッシュレスも後々検討する等、ニーズを見ながら追加で対応したいと考えている。

体育館の状況は次回までに確認し、報告したい。

【大坪委員】

館長から、現金は扱いたくないとは、防犯上であるのか、職員に現金を触らせたくないという意味なのか。

【鈴木公民館長】

それは両方含まれる。

【大坪委員】

それこそ発券機が盗まれる可能性もあり、キャッシュレスが一番である。計算ミスであれば、キャッシュレスも一体化した自動釣銭機がある。三鷹市では導入されている。

【鈴木公民館長】

先を見据えた対応を念頭に入れて検討したい。

【福井委員】

先ほど館長が、現金を扱うよりも券売機のほうが多いようなことを言われていたが、都公連加盟市において、国立市と西東京市は無料であり、それを除き、小金井市を除くと6市であるが、4市は現金で徴収している。券売機は、狛江市だけで、東大和市は不明であるが、現金扱いの市が、6市のうち4市であるので、券売機が多いとは言えない。

【川原委員】

この提言の中の徴収方法、提出する時期はどう考えるべきか。

日本は遅れているが、今後はキャッシュレス化が進んでいくと思うので、ここまでの討論を今回の提言書に載せるべきことなのか、実際に有料化になったときに、また改めて次期公運審が検討するのか教えていただきたい。

【福井委員】

提言書の6ページに書かれているが、今後検討したいというまとめで、今期のメンバーの37期では結論を出さないという内容である。来期以降、38期でまとめられるのかも含めて、検討するという内容だと思う。

【本川委員長】

私たちは提言を今検討しているわけで、まとめることになる。そこには提言である部分と、その中の方向性を含めて、こうすべきであるというものでもなく、こういう方向でということである。

【鈴木公民館長】

おっしゃるとおり、これが決定ではなく提言となる。

【本川委員長】

決定ではなく、あくまでも提言で意向を伝えることになる。

【川原委員】

この収納方法というのは、前の見学のときに、手数料が高いということで、そのまま止まっていて、改めての検討で、前の検討よりもさらにキャッシュレス化が広がっているのではないか。その辺のタイムラグが公運審でもあるので、6ページの検討が、今後どうなっていくかということですね。

【大坪委員】

キャッシュレスの導入が進んでいるまちがどんな経緯で、5年、10年後を見据えているか導入経緯を調べておくと、いざ小金井市で話を進めるときに、納得できるのではないか。ボタン式の券売機だけであっても、今後、キャッシュレスを導入する可能性があるのでは。

【川原委員】

今無料の施設も今後有料になる可能性もあるし、商工会館等お金がかかる場所も実際あるので、そういうところの今後のキャッシュレス化検討状況も参考にしてもいいと思う。

【諏訪庶務係長】

国の動向、DXの関係で、キャッシュレス化を進めるようにという話があり、小金井市も準備していくべきところであるが、庁内において現時点では、市民課、市民税課、資産税課、納税課の窓口でキャッシュレス決済を含めた新たなレジを導入し対応している。今後どこから着手していくのかを検討し、庁内で連携をとりながら進めていくことになる。

【本川委員長】

いろんな方法が今後考えられ、現時点でどういう方向で考えてほしいかを提言の中に盛り込むということを考えている。

【倉持副委員長】

提言案に今話したことを加味し整理して、どれがいいということではなく、そういう整理をしたということを掲載する方向で検討しているが、例えば②のボタン券売機の安全性は、大坪委員の話であると、○のままでもいいのか、△にすべきか。あるいはキャッシュレスの事務作業量では、ボタン券売機と同じ○ではなく、誤購入への対応から○ではなく△とするのか。

また、国の動向、市全体の取組などの先を見据えることは、文章に加えるという形と思うが、その辺はどうか。この記号に意味があるかという問題はありますが、記号によ

り分かりやすいところもある。今回ほかでは、そんなに議論になっていないが、事務局案であるので、△にすべきであるか。

【本川委員長】

個人的に思うが、機器の導入費は必ずかかってくる。ただ、買うときのコストがどうかで○△×になっている。何もなければ○で、できるだけ抑える形にするか、もうここは一気にできるかは市の予算等の考えになってくる。機器についての検討を提言に含めていくことになる。

【福井委員】

武蔵村山市に視察報告では、券売機の設置はしないとの報告であったが、公民館担当職員に券売機は使わないという意思表示を聞いただけであるか。

【吉田委員】

市の体制として、IT化を含めシステム化することに関する推進をすごく強調されていた。

【福井委員】

任用職員が3名で対応で、券売機の必要性がないという声が大半を占めたので、設置はなしということであったのか。

【吉田委員】

ほとんどは2人か1人の対応をしていた。

【川原委員】

キャッシュレスも使えるようであったが。

【稲垣委員】

キャッシュレスは使える。

【川原委員】

高齢者の利用が多く、その当時はまだ使う人がそんなにいない。

【稲垣委員】

私の記憶では、キャッシュレス化の推進で国から補助金があり、インシヤルコストがほとんどかからないで導入したと思う。しかし、実際は数%しか使われていない。ほとんど窓口で現金の支払いだったと記憶している。ランニングコストが高く、利用率が低い状況であった。

今後も検討するという形の申し送り事項にせざるを得ないのかと個人的にはしている。

【福井委員】

視察は去年の3月の話で、その当時、現金を扱って不安だという声はそんなに出ておらず、今日の話では不安という声があったが、そういう自治体のほうが逆に少ないのではないか。都公連などで聞ける範囲内で聞いていただきたい。

【本川委員長】

今の意見を尊重した上で、これをもう一度、〇×△を含め検討していただきたいということで、次の資料4の説明をお願いします。

【鈴木公民館長】

資料4をご覧ください。提言の修正版で、前回示した案に各委員の意見を参考に、正副委員長と事務局で調整した。

1、はじめに、2、これまでの検討の経過では、文言の整理を行い、3、国等の動向部分は、参考資料として最終ページに文部科学省のホームページより引用した資料を掲載した。また、前回5番目の今期における提言を3番に改め、(1)公民館の目指す姿、(2)適切な減免対象範囲の設定について、(3)効率性、利便性を考慮した使用料徴収方法とした。表とは、本日の前段での協議内容を考えている。

(4)徴収した施設使用料の使途で、最後おわりは、5番となっているが、4番となるので、申し訳ありませんが訂正をお願いしたい。

以上、一定コンパクトにまとめた形としていて、必ずしも全委員の意見が一致したものではないという認識で作成をしている。

また、この提言案を踏まえ、事前に福井委員からの意見として、文科省の資料を別紙として添付する場合は、7ページの冒頭に、文科省の第4期教育振興基本計画の中で、社会教育は地域住民が学ぶものであり、地域コミュニティ形成の営みという性格を強く有している。持続的な地域コミュニティの基盤形成に向けて、公民館等の社会教育施設の機能強化や社会教育人材の養成と活躍機会の拡充を推進させるという、別紙につながる文言を加筆すべきとの提案であった。

【本川委員長】

この件は、前回皆様の御了承を得て、副委員長と相談しながらこの提言書をまとめている。

【倉持副委員長】

各委員から頂いた意見などを踏まえ、この前の版では国の動向をかなり書いていたが、小金井市の中での議論に特化し、前の期からの申し送りの焦点の部分を提言として整理しており、基本的にはこの会議の中である程度合意したことに基づいたつもりではあるが、今日また皆さんの意見により修正したい。

【福井委員】

最終ページの資料は提言書との関連性がわからないので、先ほどの館長から説明あった内容を加筆すれば、小金井市の地域コミュニティという言葉につながりまとまると思うので、入れていただきたい。

【本川委員長】

最後のページは資料としてつけるので、福井委員の発言を踏まえて、副委員長と事務局とともに、検討させていただく。

【稲垣委員】

この提言案は、かなり私の考えとは違うという気がしている。全体的に抽象的で具体性に欠け、何を提言しているのか明確でないので具体的にすべき。

1点目は、有料化の目的が不明確で、なぜ有料化しなくてはならないのかうたうべき。

2点目は、なぜ今、有料化に移行するのか、理由を審議会で責任を持って説明すべき。

3点目は、肝となる減免の定義が不明確である。具体的には、4ページの(2)のAに幾つかの団体があるが、減額か免除かわからない。また、塾や習い事のような月謝や会費を徴収している趣味的な活動の団体は受益者負担の原則から施設使用料を徴収が妥当で、それ以外の公民館使用登録団体（登録団体）は使用料を徴収しないのか。一番公民館を利用している登録団体の方々から徴収するかどうかというのが一番の肝である。教育委員会から出ている方針（中長期計画）では徴収しない形ではあるが、登録団体からは申し訳ないが使用料を徴収すべきというのが私の考えである。提言（案）では徴収しないと取れる。

4点目は、施設使用料の設定が市民の関心事で、1時間1,000円なのか1万円なのかによって当然考えは変わる。施設使用料が適正な金額であることを明示しないと抽象的でわからない。施設使用料は低額であるべきで、市の関連施設との整合性も説明すべき。

5点目は、施設使用料の使途が曖昧で、使用料をどう使うのか。税金で賄っていたのを使用料で置き換えるだけでは使用者のメリットはない。老朽化している什器などをきれいに整備するなどプラスの材料に使うことを我々審議会から提言するべきである。

最後に6点目は、他施設との整合性で、ここはうたうかどうかは別としても、集会所は平成22年の第3次行財政改革大綱で、公民館と同時に有料化を検討すべきとなり、既に有料化しているが、公民館はまだ残っている。

また、公民館の使用料を集会所より高額にするのは納得できない。

そして、公民館にある高齢者用の部屋も空いている時は公民館が使用料を徴収するなど他の部屋と整合性を図るべき。

以上6点については、きちっと審議会として明示すべきである。

あと、言葉の定義で、公民館使用登録団体が正式な名称であるので、一律とすべき。

【本川委員長】

これまでの15回までの間にかかなりの議論を踏まえてのこの提言書になっている。

この提言は、教育委員会の一部である公民館長宛てに出すもので、教育委員会宛てということではない。

提言書のまとめ方、文言などの正式な名称は見直しをする。

【福井委員】

委員長から提言書は公民館長宛てに出すとのことであるが、他の審議会の答申書を2回出したが、市長や教育長に出すものではないのか。

【落合事業係長】

委員長からのとおりで、市の教育委員会から諮問で検討をお願いをするのであれば、答申を教育委員会の最上位に当たる教育長に出していただく。

今回の提言は、36期からの申し送りに対し、37期での意見のまとめであって、この資料を基に、市が最終判断を行う形になる。公民館長に対して、こういった形でまとまったという報告のイメージであって、あくまでも決定をするわけではない。

【橋本委員】

そうであると、そこで止まるわけであるか。

【本川委員長】

止まるわけではなく、この意見を基に予算や計画に反映していくものでは。

【吉田委員】

例えとして、この提言がホップで、館長が計画しステップで、最終的に議会に諮ることがジャンプになるのではないか。

36期より委員をやっているが、スケジュールから遅れ議論が長過ぎていて、我々の積極的なこういった意見を反映して、早く決めてほしいと思う。

【福井委員】

この提言書は公表しないということになるか。

【鈴木公民館長】

福井委員からも従前資料の話もあったが、確かにスケジュールどおりであればこの段階で有料化が始まっていたと思うが、公運審での議論、そして事務局の考えなどなど勘案の上、より丁寧な協議をしていただきたいということで、一定、スケジュールに関しては後ろ倒しになってきたという経過がある。

今後、8月に皆様から提言という形で出していただき、それを受け、市としては所定のプロセスを経て条例を改正していくことになる。

意見書なども出ており、利用者の方々の声を聞くことや市民に説明をする場を設けるといったプロセスを踏んだ後に、ゴールにたどり着いていくというイメージである。

【大坪委員】

37期は、36期からの申し送りで、進めてきたが、次期38期に何かしら申し送るのか。先ほど稲垣委員からあったように、より具体的にするのであれば、申し送りすべきではないか。このまま公民館長に提出したら、これ以上これは進まない。公民館長から公運審で検討してくれとならない限り、やらないのでは。

38期に対してどう申し送るかを我々はしっかりと詰めないといけない。

【本川委員長】

いいご意見をいただいたが、あと2回あり、その中で検討していきたい。提言は今期でまとめ、その先のことについては考えるということになる。

【大坪委員】

お願いします。

【橋本委員】

前期からこれを引き継ぎ、ここで提言を出すと思っていた。
公民館長なのか、教育長に出すのか精査したほうがいいのではないか。

【鈴木公民館長】

公民館長宛にはなるが、所定の決裁を受けることになる。

【本川委員長】

そういうことになる。ただ、市民の声は大変大事であり、行政は真摯に受け止め、そこからはかるべき手順を経て、きちんと実現し努力をしていただきたいということになる提言だと思う。

事前に皆様にお渡しをし、ご意見は事務局に戻していただき、また共有したい。
よろしければ、その他に移らせていただく。

6 その他

【諏訪庶務係長】

次回の公運審は、令和7年7月30日（水）午前10時から公民館本館での開催を予定している。

7 閉会

【本川委員長】

それでは、第37期第16回公民館運営審議会を閉会する。ありがとうございました。

— 了 —